

マタイ14:22-33 A Brief Look At Discipleship (弟子になることは?)

22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を帰してしまわれた。

23 群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひとりでおられた。

24 しかし、舟は、陸からもう何キロメートルも離れていたが、風が向かい風なので、波に悩まされていた。

25 すると、夜中の三時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。

26 弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「あれは幽霊だ」と言って、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。

27 しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

28 すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」

29 イエスは「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。

30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください」と言った。

31 そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」

32 そして、ふたりが舟に移ると、風がやんだ。

33 そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です」と言った。

祈れ

序論

神さまが私達を救って下さったのは、彼と関係を持てるようになるというためでした。神さまと関係を持つことというのは、たまに出会ったり連絡を取ったりする知り合い関係とのような関係ではなく、親しい、いつも一緒にいるような関係のことを神さまが望んでおられると私 생각합니다。このような関係を持てるように、神さまが既にその初めの一步を踏み出して私達を救ってくださって、私達がそれに応答して主を受け入れます。その後は？

イエス様を受け入れた上で、イエス様の弟子として従って行くことに召されています。イエス様の弟子として人生を送ることは、どういうことでしょうか？牧師、宣教師、教会の奉仕者にならないといけないということでしょうか？いや、必ずしもそうではありません。簡単に言えば、イエス様の導きに従うことです。神様の導きを聞き入れているかどうかということが弟子の印です。

神様の導きは、ある意味では、予測出来ないことです。イザヤに書いてある通りに、『天が地よりも高いように、神様の道は、私達の道よりも高く、神様の思いは、私達の思いよりも高い。』。神様に導かれることには、信頼関係が必要です。なぜかというと、導かれる場所はいつも心地良い場所ではないからです。導かれるところは時に試練、患難などです。

だとしても、イエス様の弟子になることは、それだけの価値があります。イエス様に用いられる人への祝福は言葉で表しにくいと思いますが、一言で言えば、すばらしい。弟子として人生を送る中、イエス様はどれほど愛、恵み、あわれみに満ちているかを、具体的な形で知ることが出来ます。

この個所では、弟子になることはいったいどういうことかということをやっと見ていきたいと思っています。

22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を帰してしまわれた。

この話が起る一日は、イエスと12人の弟子たちにとっては、かなり長かったです。イエス様の方は、バプテストのヨハネの殺害事件を耳にして、弟子達はイエス様の命令に従ってイスラエルで神さまの御国を宣べ伝える宣教旅行から帰って来たばかりです。マルコの福音書によると、食べる時間もなかったほど忙しかったと書いてあります。

なので、イエスが弟子達をベツサイダという町の近くの人のあまり居ない場所へ招いて、彼らとそこに向かいました。

しかし、その場所に着いたら、その人の居ないはずの場所には、何千人も居ました。男性の人数は5千人くらいと書いてありますから、女性と子供を含めて1万5千人から2万人くらいの人達と概算（がいさん）されています。弟子達が休もうとしていた時に、こんなに大勢の人達が居ました。しかも、この人達には、様々な必要がありました。あわれみ深いイエス様がこの人達を見て、教えたり、癒したりして彼らの必要にこたえます。

イエス様が教えたり、癒したりするのを終わったら、もう6時頃です。6時になって、仕事が終わって、家に帰るでしょ？いいえ、違います。残業あります。イエス様が5つのパンと2匹の魚を用いて集まった群衆の皆を食べさせます。少しばかりの人をもてなすことさえ楽な仕事ではないのに、1万5千人から2万人のもてなしは思いがけないほどのことです。疲れます。

疲れて、休みをとるでしょう？いや、まだです。

イエス様が群衆に食べ物を与えて彼らが十分に食べてから、弟子達に任務を与えます。それは、イエス様より先に舟で池の向こう側へ行くことでした。イエス様が弟子達に「行った方がいいよ」と言ったのではなくて、命令を下してやらせたのです。そして、弟子達が従って、航海します。

イエスの弟子として人生を送ることとは、楽な事業ではありません。次から次への連続の場合があります。

23 群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひとりでおられた。

弟子達を湖の向こう川まで行かせて、群衆を解散して、イエスは一人になりました。そして一人になると、どうなさったんですか？祈りました。

イエス様はここで何を祈ったか、そして特になんで祈っていたかについては、推測しか出来ません。

しかしながら、ここで、イエス様が祈ったということこそが大きいです。イエス様ご自身が神でありながら、父なる神さまとのコミュニケーションは大事だと思いました。

ある人はこう言いました：密かに食べる少しばかりの食べ物でも体を太らせるように、密かな祈りが魂を太らせる。

ここでイエス様が弟子となる全ての人の模範になって、（私たちのために）弟子として何をすべきかを示してくださっています。

私達が、イエス様がなさったように、疲れていても、神さまと会話する時間を作ってください。

24 しかし、舟は、陸からもう何キロメートルも離れていたが、風が向かい風なので、波に悩まされていた。

イエス様が祈っている間、弟子達が命令通りに舟で湖の向こう側へ行こうとしています。しかし、何キロメートルも進んだが、向かい風のせいで波に打たれていてもう進めなくなっています。

弟子達の中で、漁師は少なくとも4人居ました。航海のやり方を十分理解していて、そして何年間もの間この湖で魚釣りをやって来た人達だから、湖をよく知っていたと思います。だとしても、前に進めません。後で見えますが、弟子達は5時間ぐらい向こう側へ行こうと苦労していました。

それはすごいですね。前に進めない状態になっていても、前に進もうとしています。忍耐、根性、があって弟子達が諦めません。イエス様から向こう側へ行きなさいという命令を受けて、向こう側まで行くことに専念しました。

イエスについて行く生活には、根性が必要です。大変な状態に置かれた時に、どう反応しますか？諦めますか？文句言いますか？周りの人にイライラさせやすくなりますか？それとも、祈りますか？忍耐を持って続けますか？イエス様の弟子としての人生を送りたいなら、絶対に大変な状態に出会います。まだ出会っていないなら、いつか来ます。その時に、どう反応するかは大事です。

一つ注目してほしいことがあります。弟子達はなぜ、この逆風に出会ったのですか？なぜ、彼らがイエス様が言われた通りやろうとしていても前に進めなくなっていますか？大事なことを覚えないと行けないと思います。弟子達を送ったのはイエス様でした。

なぜ？どうして弟子達を愛しているイエス様がそんなことをやりますか？イエス様が彼らを愛しているこそ、送ったのです。神さまはこの12人、ユダを含めて、を強くしようとしています。どんな大変なことが起きても、彼らがイエス様の命令に従えるように訓練を授けています。彼らは将来、色々なもっと大した試練に会うことになるからです。

ある牧師がこう言いました。軍隊に入るために基本的な軍事訓練を受けなければなりません。その軍事訓練の内容は、兵士になろうとしている人達が皆一緒にキャンピングしたり、ビーチの方へ行って手をつないで水のほとりを歩んだりすることばかりで、その人達が軍隊に入って、戦いになったら、どうなりますか？パニックになって逃げてしまうじゃないんですか？イエス様は私達がそうなるのを望んでいません。

神さまはよく私達を大変な状態に導きます。イエス様ご自身がバプテスマのヨハネに洗礼を授けて、そして、父なる神が天から「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」と仰った時に、マルコには、「そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に**追いやられた**。」と書いてあります。**鳩のように**イエス様の上に下られた御霊がイエス様を荒野に**追いやられました**。それは、イエス様がサタンの誘惑を受けて試されるためでした。イエス様が荒野に居てサタンに誘惑させたのが何か偶然ではありませんでした。それこそ、神の導きでした。

サムエルを通して神さまはダビデがサウロの次にイスラエルの王になることを示しました。しかし、ダビデが王になるまでは、多くの苦難と試練を通りました。でもこういう人生を過ごした結果はダビデが熟した主を信頼する忠実な王となりました。

苦難や試練を過ごすのはもちろん誰にも楽しくありません。しかしながら、目的があります。それは、私達を精錬して、強めて、神さまが使える者達にするという目的です。よく「神さまに用いられたい」などを言うのですが、用いられるようになるため、必要な試練などを拒んでしまいます。

この精錬の過程について聖書の個所はいくつかあります。

先ずは

ローマ5：3-5

3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。5 この希望は失望に終わることがありません。 {なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。}

次に、

ヤコブ1：2-4

2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

そして、

詩篇66：10-12

10 神よ。まことに、あなたは私たちを調べ、銀を精錬するように、私たちを練られました。11 あなたは私たちを網に引き入れ、私たちの腰に重荷をつけられました。12 あなたは人々に、私たちの頭の上を乗り越えさせられました。私たちは、火の中を通り、水の中を通りました。しかし、あなたは豊かな所へ私たちを連れ出されました。

次ぎ、

箴言17：3

3 銀にはるつば、金には炉、人の心をためすのは主。

そして、

イザヤ48：10 (イスラエルに関して)

10 見よ。わたしはあなたを練ったが、銀の場合とは違う。わたしは悩みの炉であなたを試みた。

この全ての場合、その試練や患難の目的は、精錬です。試練や苦難が始まった前より強くなることです。

試練を通して強くなると言っても、あまり過ぎしたくならないのですね。試練は短期間に、不愉快ではありますが、楽な人生を過ごすことより神さまへの成長が大切

です。そのことを自分の人生で認めていますか？旧約聖書の聖者達から現代のイエス様の証のために自分の命を惜しまずに死んでいる人達に至るまでがこの事実を認めています。

あるとき、試練がこの人生に於いて終わりません。終わらずに、人が苦難、苦しみの中に亡くなるケースは少なくありません。しかし、私達が永遠のために創造されたということを心に留めておかなければなりません。そのような試練にあっても、神様の御心を忘れないで下さい！神様があなたを用いたいからこそ、準備させているということです。そしてその準備は今の人生のためだけではなくて、私達の本当の人生のためにもあります。

ローマ8：18には、パウロがこう書きました。

今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。

弟子達は従っている最中でした。イエス様の望んだことをちゃんとやっていました。そして、向かい風が彼らの進歩を妨げてきました。イエス様に従うことはいつも楽ではありません。

25すると、夜中の三時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。**26**弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「あれは幽霊だ」と言って、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。**27**しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

深い夜の3時頃です。弟子達はまだ湖のど真ん中、まだ向こう側へ行こうとしています。

マルコの福音書を参照してみたら、「イエスは、弟子たちが、向かい風のために漕（こ）ぎあぐねているのをご覧になり」と書いてあります。イエス様は長い間彼らのことを見つめていた訳です。

そして、ついに動きます。弟子達のところに行こうとします。しかも、湖の上を歩いて行きます。これはすごいですね。ヨブ記9：8に書いているように

「神は… 海の大波を踏まれる。」

弟子達がこの不思議を見て怖いと思って叫び始めます。彼らが非常に疲れたはずと
のこともあったし、当代のユダヤ人文化には幽霊の存在を信じていたということも
あったのですから、本当に幽霊だと思って、恐れました。

しかし、イエス様が彼らをそのままの状態に残さずに、すぐに湖を歩いているのは
ご自分だと話しかけて、彼らの心を治めるためでした。

**28 すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、
私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」**

直ぐ口を開いて想っていることを言い出すペテロ。ペテロはイエス様が湖の上を歩
いて、その御力を見て、逆風のこと、波のことを忘れて、イエス様だけを見つめる
ようになりました。試練の中に力のあるイエス様に目を留めれば、自分の心を襲っ
ている悩みなどがある意味で忘れることが出来ます。何が本当に大切であるかを認
めると、周りの悩みが比較的小さく見えるようになると思います。

それがきっかけで、ペテロがここで非常にすばらしいことを言います。「主よ。も
し、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってくだ
さい。」すばらしいです。この一言はプライド、高慢からでて来たのではないと思
います。少し前に、弟子達が幽霊だと思っていたイエスのことで怖くなって叫んで
いました。しかも、イエス様の命令通りに完全に向こう側まで行けませんでした。
弟子達はここで、ある程度まで、へりくだっている状態になっていると思います。

「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じに
なってください。」この一言は信仰に満ちています。水の上に歩くことは当然に無
理だということにも関わらず、そしてまだ続いている逆風のことにも関わらず、ペ
テロには、イエス様がペテロに水の上に歩いて来いと命じたら、出来ると信じてい
ました。つまり、不可能なことでも命じられても、その命令を下すのがイエス様だ
からこそ、従えると本当に信じました。私に不可能なことを命じてください！とペ
テロがイエス様に尋ねました。これは大した信仰です。

どうですか？不可能なことをやるために喜んで（快く）自分の身を神さまに捧げま
すか？神さまが私達を通して不可能なことをなさるのをお願いしていますか？それ
とも、理論と実行可能性が私達を妨げますか？私達の信仰の目には、「有り得な
い」ことが「有り得る」にはならないのですか？そういう信仰が実をあまり結ばな

と思います。そういう信仰は、神様を信頼しているのではなくて、この世の有様を信頼しているのです。

アブラハムの例を考えてみてください。

ローマ4：17-21

17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。

18 彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようなになる」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。

19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが生きたも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。

20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を歸し、

21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。

アブラハムが自然界の当然のことに心を留めたのではなく、むしろ神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。アブラハムがそうして、信仰の父と呼ばれるようになり、私達が彼に習って神を信じて救われます。

救いもこのようです。どうして神がご自分の一人子を死に渡されるほど私達を愛されるのですか？とっても有り得ないことです。どうしてイエス様の死で私達の罪は全て赦されるのですか？とっても有り得ないことです。どうして十字架で亡くなって三日後イエス様が復活するのですか？とっても有り得ないことです。しかし、神様には、これらはすべて有り得るだけではなくて、事実です。神様には「有り得ない」ことは「有り得る」ことと見なされるべきです。

私がこういう信仰をいつも持っていたいのです。

29 イエスは「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。

ここが怖いですね。イエス様がペテロに答えて、もしかして笑顔しながら、「来なさい」と言います。ペテロの願った通りです。これは非常に大事な点です。不可能

のことが出来るようにイエス様**私達**を用いたいと思っています。私達を！これは歴史上の事実です。聖書内にも聖書外にも、そうです。

モーセを通して、神様がエジプトにさばきを下されて、国を破壊しました。

一人の若い誰でもない田舎の処女を通して、メシヤをこの世に生み出されました。

神様が採用出来る人たちを捜しています。

第2歴代誌16：9

主はその御目をもって、あまねく全地を見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力をあらわしてくださるのです。

第一コリント1：26-29

26 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらん下さい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。

28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。

29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。

イエス様が命令を出しました。そしてペテロが従います。ペテロが舟から水面に降りて水の上にイエス様の方へ歩きます。どう歩きましたか？用心深く？丁寧に？喜びながら？他の人が経験したことのないことをペテロが経験出来ました。なぜこの経験が出来たかというのは、イエス様が彼をそうするように命令して、イエス様には彼を支える力が有ると思ったからです。

イエス様が命令する何でも、私たちがそれが出来るように、全ての必要を与えてくださいます。

でも、ちょっと待ってください！イエス様が先に弟子達に無理な命令を出したんじゃないんですか！向こう側へ行きなさいと命令しても、弟子達が逆風にあって進めなくなったんじゃないんですか？

その通りです。弟子達は向こう側まで完全に行けなかったのです。というのは、自分の力では、行けなかったのです。しかしイエス様がこれからはご自分の御力で向こう側まで導きます。本当に、本当に、神様の命令に従えるように、その欠けているところの何でも神様が補ってください。

主の言われることを単純に信頼するように勧められています。

このところで、ペテロの考えは単純な信仰に過ぎないのです。ただイエス様が彼を水の上に歩ませることを単純に信じていただけです。ただ信じました。どうやって出来るかなどについては論じせずに、ただ信じただけです。ペテロが自分の師が湖の上を歩んでいることイエス様のことを眺めていて、同じようになりたかったのです。私達も彼のようになるように。イエス様を眺めて、彼のようになりたくなるように。

30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください」と言った。

残念ながら、ペテロの信仰は単純じゃなくなります。周りを見始めて、風邪が強いと気付いて怖くなります。怖くなって、沈みかけてします。沈みかけると、「主よ助けてください！」とイエス様に叫び出します。

どうしたんでしょうか？ペテロの状況が何も変わっていませんでした。向かい風がまだ吹いていましたし、イエス様の御力が弱まるようなことがなかったのです。変わったのはペテロの焦点だけでした。ペテロがイエス様から目を離してしまいました。すると、彼の単純な信仰が周りに影響されるようになって（彼が）恐れるようになりました。

これには、順番が見えます。まずはペテロが周りのものに気を散らされた。そしてその次、気を散らされていたから、勇気を失ってしまいました。そして、勇気を失って、イエス様の命令に従えなくなりました。

私達もそうなんです。イエスにずっと目を止めないと、その命令に従えなくなりました。ペテロの信仰の始まりはイエス様をじっと眺めることで、その信仰の終わりは目をそらしたことでした。正にその通りです。

31 そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。 「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」

ペテロの信仰が弱まって、疑いに至りました。だとしても、イエス様はペテロが溺れるようなことをしません。かえって手を伸ばして、ペテロをつかんで助けました。助けて、問いかけます：「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか？」

このイエス様の質問は何か冷酷な言い方で聞いていないと思います。むしろ、もっとしっかりと信じるようにの挑戦、励ましだと思います。

ペテロに、「なぜ疑うのか？」と聞きます。良い質問ですね。「ペテロよ。ちょっと考えて。先わたしと一緒に水の上に歩いていたんじゃないんですか？どうした？なぜ進めないと思ったのか？」逆風の中で、イエス様が自分の弟子を励まそうとしていると思います。

イエス様は素晴らしいですね。私達が失敗する時に、ひどく責めるために来るのではなくて、救う、励ますために来ます。私達をひどく責めるのはサタンです。黙示録12：10にはサタンは兄弟たちの告発者と呼ばれ、日夜（にちや）[私達]を神の御前で訴えているとも書かれています。それにひきかえイエス様が自分の命を捨てて私たちのために十字架の上で死んでくださった上で、どうして私達を訴えることがありましよう。かえって主はいつも私たちのため祈っています。

目標は疑わずに信頼して行くことです。御霊の力によってそれは出来ます。しかし、残念ながら、私達は不完壁な人間です。なので、失敗します。疑ってしまいます。完全に従わない時もあります。大事なものは、神様を信頼して、一歩前に踏み出すということです。百万回失敗することになっても、百万回ちょっとでも神様を信頼したということです。信頼して結局失敗することは、全然信頼せずに神様のために何もやろうとしないことより全然ましです。

信仰を持って一歩前に踏み出してみると、神様の働きを疑う機会は多数あります。サタンよりの攻撃、自分の肉、この世、そしてある時、兄弟姉妹も疑いの原因になります。しかし、神様を疑う理由は何かありますか？神様は、真実な方で、変わりはありません。昨日も、今日もいつまでも、同じです。疑う必要は全くありません。

神様への信頼が弱まって、信頼が崩れてしまう時はあります。その時に、ペテロのように、すばやく助かるように主に祈ってください！

32 そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。

33 そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です」と言った。

イエス様とペテロが舟に入った瞬間、風がやみます。これを見ていた、舟に乗っていた他の人達がイエスを拝みます。

この長い奉仕、試練、信仰、失敗のあった1日がイエス様の礼拝で終了します。これらを通して、弟子達がもっとはっきりイエス様のことを知るようになります。試練を通ると、イエス様のことをもっと分かるようになります。

結論

この個所を通して、弟子として人生を送ることは何かをちょっと見ることができました。弟子の人生というのは、要するに、難しいです。しかし、それだけの価値があるのです。試練にあって、信頼しながら続ければ、神様にあって強くなって用いられるものになれるからです。人々をもっと祝福することが出来るからです。弟子として人生を送ることは楽ではありませんが、それだけの価値があります。

ここに居る誰かが、今でも試練の中にいるかもしれません。

誰かが信仰を持って一歩前に踏み出そうとしているが怖くなっているかもしれません。

イエス様を信頼し続けてください。今は大変、怖いとしても、神様の導きを恐れる必要は全くありません。その終わりに、この人生に於いても、主と面と向かって会うその日に於いても、祝福があります。

終わりに、ピリピ3：10-16で終わりたいと思います。

10 私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、

11 どうかして、死者の中からの復活に達したいのです。

12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

15 ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。

16 それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

神様の召しに応答して、信頼しながら進みましょう。